

経済学部E-folio調査にもとづく

「やる気」の考察

—— LMSを活用した継続的な学生調査の試み ——

荒 木 英 一
福 本 幹 生

1. はじめに

桃山学院大学経済学部では、2012年度から、学部生を対象とする定期的なアンケート調査を開始した。この調査はE-folioと名付けられ、2012年度以後の入学生全員を対象に、継続的に毎年すくなくとも1回の定点調査を行うことが計画されている。

調査の第一の目的は、学部在籍生ひとりひとりについて、学部教育科目や資格取得に対する関心と意欲、大学教育や学生生活全般にかかわる心配事や満足度、クラブ・サークル活動やアルバイトの現況などを捕捉することにあるが、さらに、過去一年間の自己の活動成果をいくつかの側面から振り返ることを促す質問等も行っている。

この調査を継続的に行うことにより、在籍生ひとりひとりの学生生活のいわば「軌跡」が記録される。この記録を、たとえば演習指導教員は適切な教育指導を行うための参考資料とすることができるであろうし、学生たちは自分自身の過去の学生生活を振り返るきっかけにすることもできよう。学生ひ

竹歳一紀教授、藤間真教授をはじめとする桃山学院大学経済学部E-folioプロジェクトメンバーと、桃山学院大学情報センタ、ならびに吉岡省吾氏のご協力に、深く感謝する。

キーワード：学習管理システム、学生アンケート、やる気の分析、資格取得、GPA

とりひとりが主体的に作成するポートフォリオではないものの、彼/彼女らの軌跡の記録という含意をもたせる意図で、この調査にはE-folioという名称が付与された。

このE-folioシステムは、オープンソースの学習管理システムMoodle¹⁾上に構築されており、アンケート票の作成と実施、各学生の記録と集計量の表示、演習単位でのグループ分けや閲覧権限の設定などにおいて、Moodleの多様な機能と拡張性を活用している。

技術面やデータ解析の詳細については別稿を期すこととして、本稿では、このE-folioの概要と、2012年度および2013年度の調査をもとにした分析例を紹介したい²⁾。

2 E-folioの概要

E-folioの基本的な狙いは、学部生全員を対象とする課題作文の提出やアンケート調査等を随時に実施して、その結果を全教員が共有して随時に閲覧し、時にはコメントを学生に返信する、そういう一連の作業をできるだけ効率的に行うための環境を、できるだけシンプルに整備しようということである。

この目的を実現するための試みとして、E-folioは、オープンソースの学習管理システムMoodle上に構築されており、アンケートの作成と実施、各学生の記録と集計量の表示、演習単位でのグループ分けや閲覧権限の設定などにおいて、Moodleの多様な機能と拡張性を活用している。

図1に、E-folioの概念図を示す。

-
- 1) Moodleは、国内外で最もポピュラーな学習管理システム（Learning Management SystemもしくはCourse Management System）であり、本学では2009年度より運用が開始された。この間、経済学部と外国語教育センタを中心に、活用に関するノウハウが蓄積され、2012年度より公式のシステムとして運用を継続中である。
 - 2) 本文第2節の草稿は2012年3月13日開催の経済学部研修教授会において報告された。また第3節の内容は2014年2月21日開催の経済学部研修教授会において報告された。

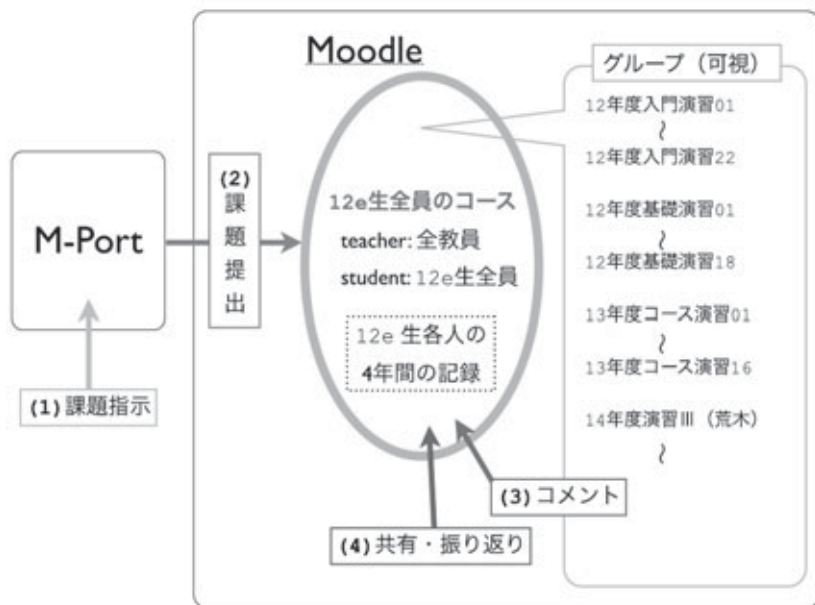


図1：E-folio概念図

たとえば、学部生全員を対象にアンケート調査（もしくは課題作文の提出）を行う場合を例にとると

- (1) まず、M-Port（桃山学院大学学生ポータルシステム）もしくはMoodleの一斉メール送信機能などを用いて、学部生全員にアンケート調査への回答要請（課題作文の提出指示）が通知される。
- (2) Moodle上には年度ごとに入学生全員を登録したコースを準備しておく（たとえば、2012年度入学の12e生全員のコース、2013年度入学の13e生全員のコース等）。通知を受け取った学生は、自分自身の入学年度のコースにログインして、アンケートに回答（もしくは課題を提出）する。なお、現在のところ、アンケート調査にはQuestionnaire（Moodleプラグインすなわち拡張機能のひとつ）を用いている。また、課題提出等には「ファイルの高度なアップロード」機能などを用いることができる。

- (3) 各コースには経済学部専任教員全員も登録されており、学生ひとりひとりの回答もしくは提出課題を随時閲覧することができる。閲覧対象を容易に絞り込めるように、コースには演習単位のグループを設定しておく。これにより、各教員は自分が担当する学生ひとりひとりの回答や演習単位での集計結果を閲覧し、ときには課題に対して個別にコメントを返すことができる。本学経済学部生の場合には、入門演習・基礎演習（1回生時）、コース演習（2回生時）、専門演習（3,4回生時）と、4年間を通じていくつかの演習に所属することになるが、原則として、担当教員ごとにすべての演習のグループを可視グループとして設定する。
- (4) 可視グループとは、コース参加者全員から「見える」ということである。つまり、たとえば教員Aの専門演習に所属するある学生が、1回生時に教員B担当の入門演習を受講し、2回生時には教員C担当のコース演習を受講したといった情報や、さらに当該学生が過去に提出した課題やアンケート回答は全教員によって共有される。さらに教員は、全体のアンケート回収率やコメント状況、特定の学生の提出状況や活動状況を確認することができる。学生たちの場合には、自分自身が過去に提出した課題や回答を随時に振り返り、閲覧することができる。

Moodleでは、機能ごとに、各ロール（参加者の役割）に対して、権限の細かい設定が可能である。E-folioでは以下の表1のように、権限の設定を行っている³⁾。

E-folioを維持するために必要な毎年、毎学期のルーチンワークを表2に示す⁴⁾。

3) 学生はStudentのロールで、教員はNon-editing Teacherのロールで登録されている。

4) 本学では、全在籍生をあらかじめMoodleに登録しておくこととしている。これにより、多くのコースでは学生の自己登録による参加方式がとられているが、E-folioの場合には学部生全員を強制的にあらかじめ登録しておく。これは、学生側のPC操作を最小限にしてアンケート回答や課題提出に集中させる意図であるが、

	アンケート	課題
学生	○ 集計結果の閲覧 ○ 自分の回答の閲覧 × 他の学生の回答の閲覧	○ 自分の提出物の閲覧 ○ 自分へのコメントの閲覧 ○ コメントへの返事 × 他の学生の提出物の閲覧 × 他の学生へのコメントの閲覧
教員	○ 集計結果の閲覧 (演習単位での集計も可) ○ 全学生の個別回答の閲覧 ○ 全学生の個別回答の保存 (CSV, より詳細な分析へ)	○ 全学生の個別提出物の閲覧 ○ 全学生への個別コメント ○ 他の教員のコメント閲覧 ○ 他の教員のコメントへの加筆

表1：E-folio閲覧権限の設定(○可, ×不可)

- 春
 - － 新入生全員＋経済学部全教員をメンバーとするコースを作成
 - － 演習のグループを作成（入門演習1回生、専門演習3回生）
 - － アンケート票の作成
- 秋
 - － 演習のグループを作成（コース演習2回生）
 - － アンケート票の作成
- 課題の実施時
 - － 課題の作成
 - － 【随意】全回答ダウンロード → より高度な集計・分析
 - － 【随意】課題提出物に対するコメント（評価）

表2：毎年・毎学期のルーチンワーク

3 「やる気」の見える化 ―偏差値やGPAは指標になりうるか―

巻末付録に、2012年度と2013年度に実施したE-folioアンケート調査の質問票を添付する。2012年度入学生（以下、12e生とする）の場合には、1回生時と2回生時に二種類のアンケートに既に回答している。2013年度入学生（以下、13e生とする）については、入学時（1回生時）アンケートの回

さらに1回生時のアンケート調査では、回収率を上げるために、演習単位の情報センタガイダンスなどと組み合わせて実施している。

答結果が利用可能である。

本節では、これらの調査結果をもとにしたいくつかの分析例を紹介したい。

3. 1 「やる気」の見える化 ―資格取得への意欲と学業への意欲―

表 3 は、12e 生と 13e 生のそれぞれについて、資格取得に興味があるかどうかを問うた設問の回答集計結果である。

	情報		FP		経済学系		簿記		英語		留学		教職		ナシ		回答 総数
	済	希望	済	希望	済	希望	済	希望	済	希望	済	希望	済	希望	済	希望	
13e (入学時)	28 (*1)	19 (*2)	0	8	0	6 (*3)	18	58	39	44	0	66	0	15	144	376	
12e (一回生時)		18		4		2		75		43		62		24	113	412	
12e (二回生時)		45		41		3		100		68		53		8	74	338	

(*) 12e 生については、取得済み資格の調査を実施していない。
(**) 取得済みの資格【ナシ】（13e：266／376名）
取得済みの資格【ナシ】（13e：266／376名）→取得を希望する資格【ナシ】（13e：119／266名）
(*1) 情報系資格を入学時に取得済みの28名中、情報処理検定（全国商業高校協会1級）を取得済 4名、ITパスポートを取得済 2名、残りは P検、MOS、ワープロ検定など。
(*2) 情報系資格の取得を希望する19名中、ITパスポートを希望する者 5名、MOSを希望する者 5名、基本情報技術者を希望する者 1名、他は P検、ワープロ検定2級など。

13e (入学時)		取得を希望										
(のべ人数)		経済学系	FP	英語	留学	情報	簿記	教職	その他	ナシ	合計	
取得済	英語	1	0	8	7	2	8	0	11	9	46	
	情報	2	0	5	2	2	7	0	6	8	32	
	簿記	0	0	0	4	0	6	1	2	6	19	
	その他	1	1	14	9	3	14	2	17	16	77	
	ナシ	2	7	17	46	12	23	12	52	119	306	
	合計	6	8	44	68	19	58	15	88	158	480	

表 3：資格取得・留学など、これからチャレンジしたいこと

情報系の資格取得を希望する者は、入学時点では 20 名弱（12e 生 18 名、13e 生 19 名）だが、二回生春学期の時点では 50 名弱（12e 生 45 名）となり、着実な需要があると言えよう。二回生時の調査で希望者が増えるのは、一年間大学で情報系の講義を受講しこの分野の資格に関して興味を喚起されたと解釈しうる。同様の傾向は、FP（フィナンシャル・プランナー）資格に関しても見いだされ、入学時点では 10 名以下（12e 生 4 名、13e 生 8 名）だった希望者が、二回生春学期には 41 名（12e 生）まで増えている。

また、簿記・英語・留学については、入学時点からコンスタントな人気

あり、二回生春学期になっても人気は落ちない。教職については、入学時 20 名前後（12e 生 24 名、13e 生 15 名）の需要があるものの、二回生春学期になると希望者が減少する傾向が見られる。

ところで、「資格取得への意欲」を有することは、（あいまいな表現ではあるけれど）学生たちの「やる気」のひとつのあらわれと見なすことができるだろう。学生生活のなかでは、学業への意欲、趣味や遊びへの意欲、課外活動への意欲など、さまざまな「やる気」が存在しうるけれど、ここでは、「学業への意欲」をもうひとつ別の「やる気」のあらわれととらえて、このふたつの「やる気」の関連を調べてみよう。

今学期いちばん興味をもって受講している授業											
	経済系	経営系	法学系	社会学	文学系	情報系	英語	簿記	教職	その他	ナシ
13e（入学時） （376名）	128 0.34	6 0.02	10 0.03	32 0.09	36 0.10	9 0.02	18 0.05	6 0.02	9 0.02	32 0.09	101 0.27
うち資格希望【ナシ】 （144名）	33 0.23	1 0.01	3 0.02	14 0.10	5 0.03	1 0.01	3 0.02	0 0.00	0 0.00	11 0.08	76 0.53
比率差 $Z \sim N(0,1)$ P値（ H_0 : 差なし）	3.59	1.10	0.55	0.66	3.17	1.70	1.93	1.95	2.39	0.48	8.93 0.000

昨年有益だった科目											
	経済系	経営系	法学系	社会学	文学系	情報系	英語	簿記	教職	その他	ナシ
12e（二回生時） （338名）	104 0.31	10 0.03	15 0.04	20 0.06	24 0.07	33 0.10	16 0.05	9 0.03	0 0.00	42 0.12	132 0.39
うち資格希望【ナシ】 （74名）	17 0.23	1 0.01	1 0.01	6 0.08	5 0.07	6 0.08	3 0.04	1 0.01	0 0.00	8 0.11	38 0.51
比率差 $Z \sim N(0,1)$ P値（ H_0 : 差なし）	1.64	0.92	1.46	0.90	0.13	0.54	0.31	0.79		0.48	2.45 0.007

今年いちばん受講してみたい科目											
	経済系	経営系	法学系	社会学	文学系	情報系	英語	簿記	教職	その他	ナシ
12e（二回生時） （338名）	150 0.44	7 0.02	7 0.02	10 0.03	21 0.06	16 0.05	7 0.02	15 0.04	0 0.00	30 0.09	82 0.24
うち資格希望【ナシ】 （74名）	27 0.36	2 0.03	3 0.04	4 0.05	5 0.07	0 0.00	0 0.00	2 0.03	0 0.00	5 0.07	27 0.36
比率差 $Z \sim N(0,1)$ P値（ H_0 : 差なし）	1.55	0.43	1.36	1.41	0.22	2.17	1.42	0.82		0.73	2.78 0.003

表 4：経済学部で勉強したいこと、興味深い科目

表 4 は、表 3 の回答結果でグループ分けし（なんらかの資格を取得することを希望するグループと、資格取得にまったく関心がないグループに分け）たうえで、「今学期いちばん興味を持って受講している科目」「昨年受講して有益だった科目」「今年いちばん受講してみたい科目」等の設問に対する回答を集計したものである。

表4は、「資格取得への意欲」と「学業への意欲」が同じ方向への相関を有することを含意している。

たとえば、「今学期いちばん興味をもって受講している授業がまったくない」と回答した者の比率は、13e生全体376名中の27%だが、13e生のうち「資格取得にまったく関心がない」と答えた144名中の53%を占める（グループ間比率差の検定統計値は8.93で、比率に差はなしとする帰無仮説に対するP値は0.000%）。

「昨年有益だった科目はまったくない」と回答したグループについても、「今年いちばん受講してみたい科目はまったくない」と回答したグループについても、同様の結論が得られている。

命題

資格取得に関心がない（ある）者は、学業への意欲も弱い（強い）傾向がある。

資格取得が当該分野の学習へのインセンティブとなりうることは当然だが、たとえば情報系の資格を取得するための学習などは、「本業」である経済学の学習と重なる部分も多く、「本業」の学習にもプラスの効果を期待しうる。また、資格取得のための学習は短期間に基礎学習と問題演習を反復するプロセスであるが、超短期的に学習成果があらわれるために、基礎学習の重要性を認識させるうえでも、一定の効果を有するものと思われる。情報系の学習などでは、資格取得をひとつの梃子にして、より深い学びへと誘導し、学業全般へのインセンティブを喚起するといったことが可能かもしれない。

3.2 「やる気」との相関 —偏差値やGPAはアテにならず—

上で考察した「やる気」、すなわち資格取得や学業への意欲と、出身高校偏差値や本学入学後のGPAとの関連を調べてみよう⁵⁾。

5) 出身高校偏差値については、インタネット上のいくつかのサイト（高校偏差値.comなど）で公表されている値を参照した。GPAについては本学教務課からデータの提供をうけた。

まず、図2は、12e生の出身高校偏差値とGPA（2回生春学期終了時）の分布である。

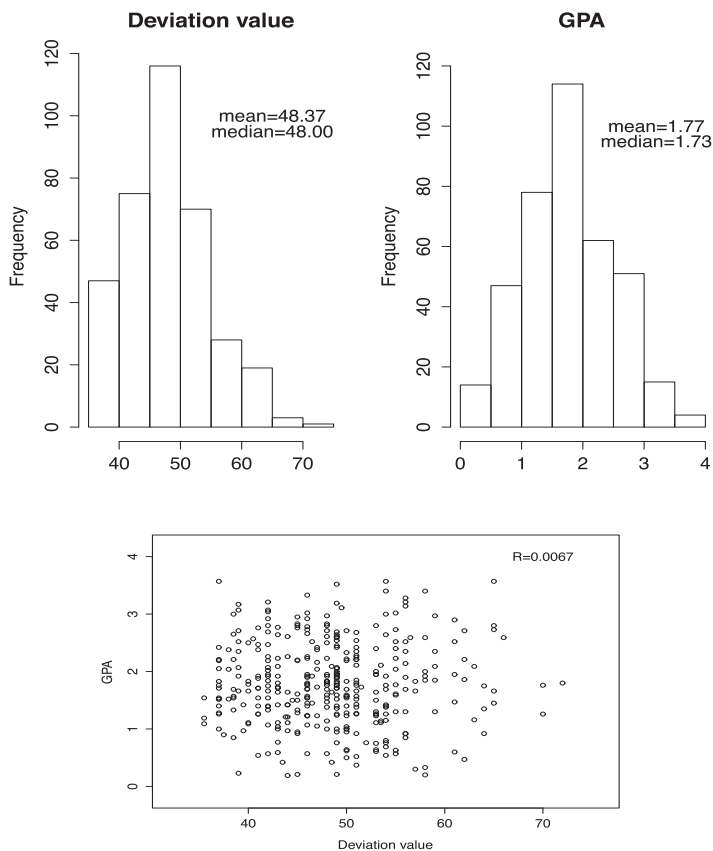


図2：出身高校偏差値とGPA(2回生春学期終了時)

出身高校偏差値は、35.5から72.0まで幅広く分布しており、平均と中央値はともに48強となる。一方、GPAは0.0から3.57の範囲に分布し、平均と中央値は1.7強である⁶⁾。これらと、E-folio調査から抽出された「やる

6) とところで、実は、図が示すように、奇妙なことではあるが、出身高校偏差値とGPAにはまったく相関がない。これにはいくつかの理由が推測され、また、いくつかの弊害も指摘されうるだろうが、本稿ではこの点に立ち入ることは避けたい。

気」との関連を調べてみよう。

図3は、偏差値分布の各クラス内での「情報系資格を取得したい」者の割合を示している。図中のグレーの棒が各偏差値クラスの人数を、それぞれの棒のうち黒く塗りつぶされた部分が情報系資格の取得を希望する者の人数をあらわしている。

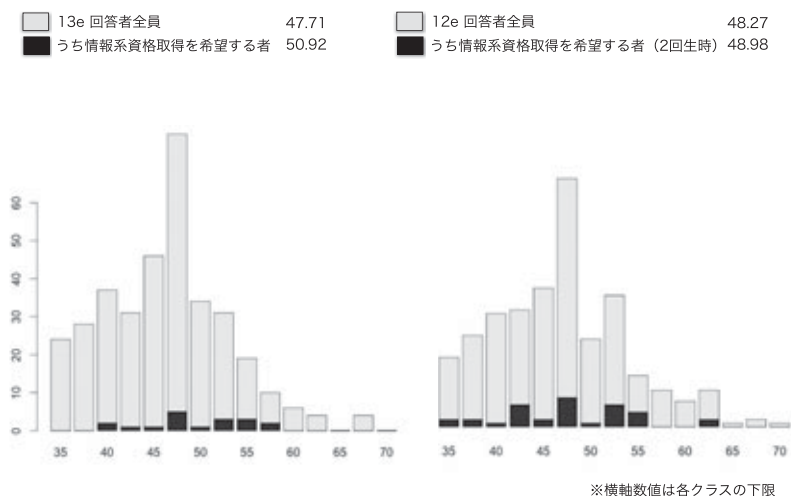


図3：各偏差値クラス内における情報系資格希望者の割合

図3から読み取れるように、情報系資格の取得を希望する者は、出身高校偏差値の高低にかかわらず、まんべんなく分布している。

そして実は、この傾向は、E-folio調査のほとんどすべての回答項目についてあてはまる。

表5の上表は、E-folio調査のうち、資格取得と学業への意欲に関する回答項目のそれぞれについて、「やる気」を示す者の偏差値分布をまとめたものである。表の右端の列に示されている数値は、「やる気」を示す者と示さない者で偏差値分布に差があるかどうか（ $2 \times n$ 分割表の各行に「差はなし」とする帰無仮説に対する、 χ^2 適合度検定とフィッシャー正確検定）のP値で

ある。ほとんどすべての項目において帰無仮説は棄却できず⁷⁾、「やる気」の有無は偏差値とは独立であることを示している。

同様に、表5の下表は、「やる気」を示す者のGPA値の分布（度数）を示したものである。すべての項目において帰無仮説は棄却できず、「やる気」の有無はGPA値とは独立であることを示している。

命題

資格取得や学業への意欲（「やる気」）は、偏差値やGPAに依存しない。

この命題は、学内奨励金や補助金の支給基準にGPAを用いることの限界を示すものと解釈しうるだろう。高いGPA値を有する者が、必ずしも、資格取得や学業への強い意欲（「やる気」）を有しているわけではない。「やる気」は、偏差値やGPAとは独立に分布しているのである。

7) 「講義は有益だった」という項目が5% 有意であるが、これを除くすべての項目において、帰無仮説は棄却できない。

偏差値クラス下限	35	40	45	50	55	60	65	70	χ^2	Fisher
全回答者	42 100.0	62 100.0	99 100.0	60 100.0	24 100.0	17 100.0	3 100.0	1 100.0		1.0000
資格取得に興味 (一回生時)	28 66.7	40 64.5	69 69.7	46 76.7	18 75.0	12 70.6	3 100.0	1 100.0	0.7333	0.8144
資格取得に興味 (二回生時)	31 73.8	34 54.8	58 58.6	44 73.3	19 79.2	11 64.7	3 100.0	1 100.0	0.0950	0.0948
情報系資格に興味 (一回生時)	4 9.5	0 0.0	3 3.0	4 6.7	1 4.2	1 5.9	0 0.0	0 0.0	0.4102	0.1949
情報系資格に興味 (二回生時)	5 11.9	4 6.5	11 11.1	10 16.7	5 20.8	1 5.9	0 0.0	0 0.0	0.5223	0.5063
講義は有益だった	26 61.9	24 38.7	49 49.5	31 51.7	18 75.0	11 64.7	3 100.0	1 100.0	0.0243	0.0187
経済系の講義は 有益だった	11 26.2	11 17.7	23 23.2	17 28.3	10 41.7	4 23.5	3 100.0	0 0.0	0.0376	0.0540
情報系の講義は 有益だった	5 11.9	5 8.1	7 7.1	5 8.3	1 4.2	3 17.6	0 0.0	0 0.0	0.8131	0.7475
もっと受講したい 科目がある	24 57.1	41 66.1	63 63.6	39 65.0	17 70.8	9 52.9	3 100.0	1 100.0	0.7029	0.7907
経済系の科目を もっと受講したい	11 26.2	25 40.3	34 34.3	26 43.3	10 41.7	5 29.4	3 100.0	0 0.0	0.1847	0.1964
情報系の科目を もっと受講したい	3 7.1	2 3.2	3 3.0	2 3.3	1 4.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0.9291	0.8527

GPA クラス下限	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3	3.5	χ^2	Fisher
全回答者	6 100.0	37 100.0	67 100.0	98 100.0	59 100.0	44 100.0	13 100.0	4 100.0		1.0000
資格取得に興味 (一回生時)	6 100.0	28 75.7	45 67.2	66 67.3	38 64.4	36 81.8	12 92.3	2 50.0	0.1207	0.1121
資格取得に興味 (二回生時)	5 83.3	27 73.0	42 62.7	66 67.3	36 61.0	27 61.4	9 69.2	3 75.0	0.8619	0.8948
情報系資格に興味 (一回生時)	1 16.7	2 5.4	3 4.5	3 3.1	2 3.4	2 4.5	0 0.0	1 25.0	0.3656	0.3257
情報系資格に興味 (二回生時)	2 33.3	6 16.2	8 11.9	7 7.1	8 13.6	4 9.1	2 15.4	1 25.0	0.4479	0.2767
講義は有益だった	3 50.0	15 40.5	32 47.8	62 63.3	31 52.5	22 50.0	9 69.2	0 0.0	0.0660	0.0634
経済系の講義は 有益だった	2 33.3	5 13.5	15 22.4	28 28.6	18 30.5	10 22.7	6 46.2	0 0.0	0.2499	0.2531
情報系の講義は 有益だった	1 16.7	4 10.8	8 11.9	7 7.1	2 3.4	5 11.4	2 15.4	0 0.0	0.6132	0.4203
もっと受講したい 科目がある	4 66.7	20 54.1	41 61.2	69 70.4	37 62.7	26 59.1	11 84.6	2 50.0	0.4473	0.4192
経済系の科目を もっと受講したい	3 50.0	15 40.5	17 25.4	39 39.8	23 39.0	16 36.4	5 38.5	2 50.0	0.6285	0.5695
情報系の科目を もっと受講したい	0 0.0	0 0.0	3 4.5	4 4.1	3 5.1	2 4.5	1 7.7	0 0.0	0.9114	0.8158

※ 各セル上段は度数、下段は各クラス全回答者に対する%

表5：偏差値・GPAと「やる気」

4 結びにかえて ―今後の課題―

E-folioの基本的な狙いは、学部生全員を対象とする課題作文の提出やアンケート調査等を随時に実施し、その結果を全教員が共有して随時に閲覧し、時にはコメントを学生に返信する、そういう一連の作業を効率的に簡便に行うための環境を、できるだけシンプルに整備しようということであった。現在のE-folioシステムは運用開始からすでに四年目を迎えるが、この初期の狙いについては、一定の成果をあげたと考えている。

しかし、こうしたシステムには継続的な改善が不可欠である。質問項目の吟味精選等はもちろん重要であるが、技術的な改善もまた重要な点である。このうち特に後者の側面に関する課題を書き留めて、本稿の結びにかえたい。

まず、紙ベースで行われたアンケート回答や手書きの提出課題などを、MoodleのE-folioコースへ取り込む機能が必要である。

全学部生を対象としてアンケートを行う場合、回収率を十分に高くするためには、全学部生がもれなく受講している講義の中で行うことが最善である（講義外の任意の時間に回答して提出せよといった指示を与えるだけでは、回収率は極端に低くなってしまう）。したがって、E-folioのような、いわゆるオンライン調査の場合には、全学部生が履修登録している実習系科目のなかで行われることが必要となる。

しかし、一学年の学生数が数百名となる私立大学の現状では、これは、むしろかしい要請である。たとえば、本学経済学部の場合には、新入生全員が一回生春学期に「入門演習」という少人数の演習を受講する。この必修科目の全15回の演習のうち1コマを「情報センタガイダンス」としてPC実習に割り当て、その時間内にE-folioアンケートを実施するかたちをとっている。しかし、二回生時には全学部生がもれなく履修する実習系科目が存在しないために、二回生時のE-folioアンケートについては、全員必修の座学講義科目にて、従来方式（紙ベース）のアンケートとして実施せざるをえない現状である。

このように、従来方式（紙ベース）のアンケート結果をMoodleに取り込

み、各学生の回答を、当該学生の過去の回答や提出課題と統合する機能が必要となる。あわせて、管理者権限による各回答の修正機能等も付加されることが望ましい。

また、現状では、Moodle本体のアップグレードに、特定のプラグイン・モジュールの更新が追いつかないことがある。あるプラグイン内で作成されたデータを移行できないといった問題も生じうるために、Moodle本体の更新を見合わせるといった本末転倒の事態が生じかねない。

こうした問題の解決策として、独立したデータベースの構築や独自モジュールの開発について、検討を継続している状況である。

<参考文献>

- Michael Churchward, "Questionnaire module", Moodleプラグイン
(https://docs.moodle.org/24/en/Questionnaire_module)
- 鈴木武・山田作太郎『数理統計学 — 基礎から学ぶデータ解析』, 1996 年, 内田老鶴園
- 重田・板谷・石田・名木田「Moodleを利用した各種アンケートの有効性と問題点 — 3年間の運用実績を踏まえて」, 2011 年, 川崎医療短期大学紀要 31 号
- 福田・小島・黒澤・高橋「Moodleの持つアンケート機能の比較と日本語環境の整備」, 2012 年, 北里大学一般教育紀要 17 号
- 伏木田・北村・山内「テキストマイニングによる学部ゼミナールの魅力・不満の検討」, 2012 年, 日本教育工学会論文誌 36 巻
- 遠藤大二「Maharaとクリッカーを連動した授業を可能にするMahara活用の展開」, 2011 年, Mahara Open Forum
- Toshihiro Kita, "pdf 2 submission", Moodleプラグイン
(https://moodle.org/plugins/view/block_pdf_2_submission)

(あらき・えいいち／経済学部教授／2015 年 4 月 17 日受理)

(ふくもと・みきお／経済学研究科博士前期課程修了, 本学情報センタ事務課派遣職員)

付録：E-folioアンケート票

【2012年春 12e生（一回生）】

E-folioは、経済学部生の学修・生活状況を把握し、その情報を教員間で共有することで、効果的な指導に役立てるためのシステムです。皆さんが記入した情報（氏名も含む）は、今学期の入門演習担当教員の他、今後履修する演習担当教員など、経済学部の専任教員が閲覧します。そこで得た情報は、学修・生活状況の指導に用いる以外の目的（成績評価など）には用いません。

設問には、ありのままを回答してくださるよう、お願いします。ただし、どうしても回答したくない設問には、回答しなくてもかまいません。

1. 性別（男/女）
2. どの入試制度で入学しましたか？（多肢選択）
3. 高校時代にやっていた部活動・課外活動（自由記述）
4. 出身高校名（自由記述）
5. 自宅通学ですか？下宿生活ですか？（自宅通学/下宿生活）
6. 自宅通学の人の大学までの通学時間は？
（1時間以内/1～2時間/2時間以上）
7. 現在やっているクラブ・サークル活動（自由記述）
8. 現在やっているアルバイト（自由記述）
9. 経済学部で勉強したいこと、関心のあること（自由記述）
10. 資格取得・留学など、これからチャレンジしたいこと（自由記述）
11. 大学生活で不安に思っていること、現在困っていること（自由記述）
12. 今学期いちばん自分が興味を持って受講している科目は？（自由記述）
13. あなたの現在の学生生活の充実度を10段階で評価してみてください
（1が最低、10が最高です）

【2013 年春 12e 生（二回生）】

下記の設問について、別紙の回答用紙に回答し、回答用紙のみを提出してください。回答は、諸君の大学生活の向上の為に利用いたします。ただし、統計的に処理した結果を、個人を特定できない形で公表することはあります。

1. 現在やっているクラブ・サークル活動（自由記述）
2. 現在やっているアルバイト（自由記述）
3. 現在、経済学部で勉強したいと思っていること（自由記述）
4. 資格取得や留学にチャレンジしたいか（自由記述）
5. 大学生活で不安に思っていること、現在困っていること（自由記述）
6. 昨年一年間で、受講して有益だった科目（自由記述）
7. 今年、いちばん受講してみたいと思っている科目（自由記述）
8. 昨年一年間を振り返り五段階で評価してください（1 が最低, 5 が最高）
 - 授業に出席した。
 - 授業の内容について積極的に学習した。
 - 授業の内容について関心が持てた。
 - 履修した授業の単位を取得した。
 - レポートや論述試験に慣れた。
 - グループワークやプレゼンテーションに慣れた。
 - 大学の課外プログラム(海外研修, ボランティアなど)に参加した。
 - 授業以外のことについて読書をした。
 - 資格取得の勉強をした。
 - 学内で新しい友人関係を築くことができた。
 - クラブやサークルで積極的に活動した。
 - 熱心にアルバイトをした。
9. あなたの現在の学生生活の充実度を 10 段階で評価してみてください（1 が最低, 10 が最高です）

【2013 年春 13e 生（一回生）】

E-folioは、経済学部生の学修・生活状況を把握し、その情報を教員間で共有することで、効果的な指導に役立てるためのシステムです。皆さんが記入した情報（氏名も含む）は、今学期の入門演習担当教員の他、今後履修する演習担当教員など、経済学部の専任教員が閲覧します。そこで得た情報は、学修・生活状況の指導に用いる以外の目的（成績評価など）には用いません。

設問には、ありのままを回答してくださるように、お願いします。ただし、どうしても回答したくない設問には、回答しなくてもかまいません。

1. 性別（男/女）
2. どの入試制度で入学しましたか？（多肢選択）
3. 高校時代にやっていた部活動・課外活動（自由記述）
4. 出身高校名（自由記述）
5. 自宅通学ですか？下宿生活ですか？（自宅通学/下宿生活）
6. 自宅通学の人の大学までの通学時間は？
（1 時間以内/1～2 時間/2 時間以上）
7. 現在やっているクラブ・サークル活動（自由記述）
8. 現在やっているアルバイト（自由記述）
9. 経済学部で勉強したいこと、関心のあること（自由記述）
10. すでに取得済みの資格があれば、記入してください。（自由記述）
11. 資格取得・留学など、これからチャレンジしたいこと（自由記述）
12. 大学生活で不安に思っていること、現在困っていること（自由記述）
13. 今学期いちばん自分が興味を持って受講している科目は？（自由記述）
14. あなたの現在の学生生活の充実度を 10 段階で評価してみてください（1 が最低、10 が最高です）

A Consideration of Student Motivation Based on “E-folio”

ARAKI Eiichi

FUKUMOTO Mikio

The faculty of economics at Momoyama Gakuin University has been conducting a periodical comprehensive survey of all students since the school year of 2012. The survey system is called E-folio and built on Moodle, one of the most popular open source Learning Management Systems, so that its operating cost is minimised and it can save time and labour of the faculty staff. The response rate is always over 90% and meaningful information has been piling up.

In this article, first, we will explain how we make use of the diverse functions of Moodle to build and manage the survey system. Second, we will show some results from our empirical study based on the student responses. In the latter half, the two propositions will be given: (1) Student motivation to learn is positively correlated with the motivation to get qualification as an IT expert, a bookkeeper, a fluent English speaker and so on. (2) The motivation is statistically independent of GPA. For example, students with high GPA scores do not always have high motivation for studying economics, while some students with relatively low GPA scores have an earnest desire to get the qualification of IT expert.